



大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第130号
2022. 12. 1

3年生に聞きました 《こんな先生になりたい!》

《児童に対する愛情や責任感のある先生》

教育学部・教育学科 別符 友南

私の目指す教師像は、児童に対する愛情や責任感のある先生である。

学生ボランティア先の学校では、温かいまなざしで児童を見守り、児童を認める姿勢を示す先生の学級は、とても明るく温かい印象を受けた。そうした姿勢は、児童の個性や能力を伸ばすことができる児童への愛情である。

また、小学校での学びは児童の人生の土台をつくる大切なものである。その学びに関わる者としての責任感をもち、児童一人一人と向き合うことができる先生を私は目指す。

《「できた」「わかった」と実感させられる先生》

教育学部・教育学科 川副 瑠理

私は児童に「できた」「わかった」と実感させることができる先生になりたい。なぜなら、児童がとびきり嬉しそうな顔を見せたり、学ぶ意欲が高まったりするきっかけが、そうした「できた」「わかった」の場面であるからだ。さらに私自身、学生ボランティアとして授業に参加する中で、そうした場面に遭遇するととても感動するからだ。

この「できた」「わかった」を全員が実感できるような先生に私はなり、児童と共にその成長を喜び合いたい。

《安心感をつくれる先生》

教育学部・教育学科 三宅 澄夏

私は、安心できる雰囲気のある教室を児童とともにつくれる先生になりたい。

家庭環境が様々な児童が共に学ぶ学校という場で、居心地が良いと感じられる空間をつくることは易しくない。先生は、児童の長所をたくさん見つけ、肯定的な言葉かけをする。それを学級で共有する。すると児童は自己肯定感を伸ばし、その輪が次第に学級全体に広がっていく。そんな温かい教室を私はつくりたい。

《児童一人一人との関わりを大切にする先生》

教育学部・教育学科 采野 真菜美

私は、児童一人一人との関わりを大切にする先生になりたい。それは、私の恩師が児童との関わりを大切にし、信頼関係が厚い学級を作り上げてきたからだ。

先生が児童との交流の機会を多く作り、児童の実態を把握して言葉かけを行う。そうした取組を通して「安心して頼れる先生」「何でも話せる先生」に私はなっていきたい。

《児童の将来の夢につながる先生》

教育学部・教育学科 関 菜乃果

私は児童が将来の夢を持つきっかけを与えられる先生になる。コロナ禍や社会の変化により「将来の夢がある」と答える児童が減少していると言われている。そこで、児童が新たなことに興味をもてる魅力ある授業を行うこと、児童の個性を引き出しその可能性を伸ばすことで、児童が夢に向かって頑張れる、頑張る友達を応援し合える温かい学級を私はつくりたい。

《児童の変化に気付ける先生》

教育学部・教育学科 木本 莉音

私は児童の変化に気付ける先生になりたい。児童は日々変化し、成長している。登校時、とても元気な児童もいれば、心なしか元気のない児童もいる。そうした日常の学校生活の中にSOSが隠れているかもしれない。授業中、理解が不十分であることは、動作や発言だけでなく、表情にも現れることがある。しっかりと児童を観察し、その変化に気付ける先生に私はなりたい。

《成長を一緒に喜べる先生》

教育学部・教育学科 八木 彩香

ボランティア先の学校で、児童が「先生、運動会の練習頑張ったよ」と、とてもうれしそうに声をかけてくれた。その児童は、集団行動があまり得意ではなく、練習にも参加しにくい児童であったので、その報告を聞いて私もとてもうれしかった。

私は、児童が頑張ったこと、できるようになったことを共に喜び、その喜びを児童の成長につなげることができる先生になりたい。

《可能性を引き出し伸ばしていく先生》

教育学部・教育学科 板尾 大樹

私は、児童に潜在している可能性を引き出し、それをさらに伸ばしていくことができる先生を目指したい。

児童には、生まれながらにして無数の愛と無限の可能性が宿っている。一寸先しか見えていない児童に長いレールを敷くのが先生の務めだとするならば、児童の学びや成長を見取ることを通して個々の可能性の蕾を咲かせられるだろう。そのためにも、児童「と」学び、児童「に」学ぶことができる先生であり続けたい。

《児童の心に寄り添える先生》

教育学部・教育学科 藤 祐真

私の理想の教師像は、児童の苦手に寄り添うことのできる先生だ。私自身、小学生のときに苦手な教科が多く自信をもつことができなかった。しかし、恩師の指導を受けて得られた成功体験を経て、私も自信を持つことができる契機になった。恩師は私ができるまでそばにいて、できたときには私以上に喜んでくださった。

このような経験から、私は児童に寄り添い児童と共に喜びを分かち合える先生になりたい。



《 縁の下を支える教師 》

文学部・歴史学科 武田 怜

私はどんな生徒に対しても差をつけることなく、全力でぶつかり合うことができる教師になりたい。学校では生徒が主役である。教師が自分の意見や価値観を押し付けるのではなく、生徒同士で考えて答えを出せるようにしたい。そういう意味で、私は義理人情に熱く、縁の下の力持ちという言葉が似合う教師になりたい。

《 国語科が好きになる授業ができる教師 》

文学部・文学科 嘉 健成

私は人前で話をするのが苦手だが、克服しようと大学での模擬授業を頑張っている。苦手なことでも挑戦すれば克服できることを生徒に伝えたい。学習も同様で、私は国語科教員志望だが国語科がとても得意というわけではない。しかし好きである。仮に国語科が苦手だという生徒がいたとしたら、苦手だけど国語科が好きだとその生徒に感じてもらえる授業ができる教師に私はなりたい。

《 全力で頑張る教師 》

文学部・歴史学科 西村 来夢

私は、思いやりがあり何事も全力で頑張ることができる教師になりたい。そして生徒一人一人に寄り添い、その個性を大事にしたい。そのためには、思いやりの心を持って生徒と積極的にコミュニケーションをとるなどして、生徒が過ごしやすい学校、学級を私自身が生徒と共に作り上げていきたい。さらに私自身も学び続けて、日々成長していきたい。

《 生徒から信頼を得られる教師 》

文学部・哲学科 堀土 幹太郎

私は生徒一人一人から信頼を得られる教師になりたい。なぜなら、生徒が学校で学ぶことは将来の進路に直結する内容であり、後悔が残らないように学校でも大切に有意義な時間を過ごしてもらいたいからである。そのためには、生徒の一番近くにいる教師に対する信頼感がなければ、力になることはできない。私は生徒と強固な信頼関係を築きたい。

《 生徒に身近な教師 》

文学部・歴史学科 廣瀬 勇弥

私は、生徒にとって身近な存在と思ってもらえるような教師になりたい。

身近な存在だと、臆することなく話すことができ、それが生徒の抱える不安や問題の解決につながっていく。また、生徒が学習のわからないことを聞きに来ることで、授業の活性化や学力向上につながっていく。生徒が学校で良い思い出がつかれるように、アシストができるような教師になりたい。



《 学び続ける生徒を育てる教師 》

文学部・文学科 酒井 沙絢

私は、大学で考え学ぶことの楽しさや面白さを知った。同じように、生徒には私の授業を通じて、考え学ぶことの楽しさや面白さを知ってもらいたい。そして、社会に出てからもあらゆる場面で、生涯にわたって学び続ける態度を忘れない生徒を育てられる教師になりたい。

《 段階的な役割を担える教師 》

文学部・哲学科 中西 航暉

私は、生徒の失敗を受け入れて、生徒が次に進むため、成長するための「段階的な役割」を担えるような教師になりたい。そうすることで、今起きている様々な問題や日常生活の課題などを社会の成員の一人として責任を持って共に考える事で、より良く生きていくことができるような人間が育つのではないかと考える。

《 生徒に公平に関わり、公平に評価できる教師 》

文学部・歴史学科 常岡 純基

私は、生徒たちと公平に関わり、公平に評価できる教師になりたい。
生徒と公平に接し、生徒の特長を掴み、生徒が必要とする支援を模索し、実行する。その繰り返しで生徒に安心感と信頼感を持ってもらえる教師に私はなりたい。



教職支援センター アドバイザーから

本号では教職を目指す3年生から募集した「こんな先生になりたい」の原稿を掲載しました。紙面の都合で掲載できなかった学生の皆さんには心よりお詫びします。さて今回の原稿内容は言い換えると「理想の教師像」であり、採用試験の面接でよく聞かれる質問の一つです。単に「先生になりたい」というだけでなく、「どんな先生になりたいか」について考えることは、教職についてより深く考えることにつながり、とても大切なことです。1, 2年生の皆さんも「理想の教師像」をじっくりと考えてみてください。

【速報】令和5年度教員採用試験結果（公立学校）

校種	名簿登載人数	内訳（自治体）
小学校	24人	京都府2, 京都市4, 滋賀県4, 大阪府5, 大阪市1 豊能地区1, 北海道1, 新潟県1, 千葉県1 横浜市1, 島根県1, 鳥取県1, 愛媛県1
中学校	0人	
高等学校	0人	